

自ら学ぼうとする姿勢がない限り、学ぶことは不可能！

「TOEIC 演習」を担当します大城賢と言います。教育学部に所属しています。公立の中学校や高等学校で、英語教師を 15 年間したあとに、大学のへ異動しました。今年で 23 年目を迎えます。

大学の教員になってから、はじめの 3 年間は講義ノートを作り（今も作っていますが）、指導資料もけっこう準備しました。大学の教員ですから、学生に話したいことはたくさんあります。話をするのは大好きで全然苦になりません。講義が終わると、心地よい汗が流れていて、それなりに充実感もありました。しかし、3 年目が終わる頃、私の講義では学生が受け身になっていることに気がつきました。私は伝えたいことを伝えただけで、学生はそれを受け取ったかどうかは分かりません。そんな時、次のような言葉に出会いました。

"Tell me, I will forget; Teach me, I may remember; Involve me and I will learn." -Benjamin Franklin

講義の中で、私は“Tell”をしているか、よくても“Teach”のレベルで止まっていることに気が付きました。そこで止まっているのは、学生は“Learn”のレベルまでは到達しません。そこで講義スタイルを変えることにしました。教師が話す前に、学生に話してもらうスタイルにしたのです。はじめは、誰も何も言いません。1分、2分・・・5分が過ぎていきます。我慢ができなくなって教師が話し始めるとその時点で負けでした。教師がひたすら我慢すると、そのうち誰かが話し出します。そして、教師中心型から、学生中心型になっていきました。そして、私の講義は、今では学生中心になっています。講義のあとに毎年実施している学生評価は、教師中心型で行った時よりも、はるかに高いものとなっています。

この TOEIC 演習においても初めて担当した時は、問題の解説などをやっていました。しかし、その後、学生から「せっかく PC での学習が可能なのに、講義をするのはどうか・・・」という意見も寄せられました。教員としては複雑な心境になりました。

さて、何事でもそうですが、自ら学ぼうとする姿勢がない限り何事も身に付けることはできません。特に、継続的な学習や積極的な態度が必要な語学の学習においては学習者の「主体性」が成功のカギと言えます。

本講義においては、PC にて TOEIC 問題にひたすら取り組んでいただきます。疑問点も基本的に自分で解決してください。もちろん、学習者どうして疑問点を解決し合うこともありです。最終的に解決できないときは教員に質問してもかまいません。

PC 学習は自宅からもネット環境があれば可能です。毎日、1 回は PC に向かって学習して欲しいと思います。

評価は出席、学習履歴、そして中間、期末テストで行います。